

街を行き交う人々の外見的特徴と行動が 都市景観の印象に及ぼす影響

氏名 田中 うらら

本研究では、都市景観において「人」の存在（属性・歩行量・滞在者の有無）が、空間の印象、特に居心地の良さや安心感といった心理的な側面にどのような影響を与えているのかを明らかにする。

年齢・性別・職業を問わない一般の人々を対象に 8 枚の画像を用い印象評価実験を行った。有効回答数は 32 件であり、t 検定により分析を行った。

結果、平均値の分布や条件間の差異から、各要素が印象評価を左右しており、人の存在は物理的要素と同等もしくはそれ以上の影響力を持つ要素だった。したがって本研究から人の外見や行動といった人的要素が、都市景観の印象を構成する重要なデザインであることを明らかにした。